

平成20年2月

高田美也子 学位論文審査要旨

主 査	清 水 英 治
副主査	西 連 寺 剛
同	難 波 栄 二

主論文

肺癌細胞株におけるEGFR標的治療薬の感受性因子の検討

(著者：高田美也子、千酌浩樹)

平成20年1月 59巻 米子医学雑誌 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌治療における分子標的治療薬（gefitinib, cetuximab）の感受性規定因子についての検討をするために、多数の肺癌細胞株を用いて、EGFR遺伝子変異、KRAS遺伝子変異およびEGFR遺伝子増幅のパターンと増殖抑制効果を比較したものである。さらに、EGFRとその下流シグナルの活性化状態を調べた結果、cetuximabに対する感受性細胞の特徴的な分子発現パターンを見出し、EGFR阻害薬による肺癌治療の新たな分子マーカーを明らかにしている。本論文の内容は、分子標的治療薬の効果予測因子を明らかにしたものであり、臨床腫瘍学における肺癌治療の面で、明らかに学術水準を高めたものと認める。